

製品名: HP1 ガンマウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe86450**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,FC
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	-
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質を含む溶液で提供されます。受領日から12ヶ月間安定です。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:200,ICC/IF 1:100-1:200,FC 1:50-1:100
分子量	Calculated MW:21 kDa; Observed MW:21 kDa

抗原情報

遺伝子名	HP1 gamma
別名	HECH; HP1-GAMMA; HP1Hs-gamma
遺伝子ID	11335
SwissProt ID	P23198
免疫原	マウス HP1 ガンマの合成ペプチド

背景

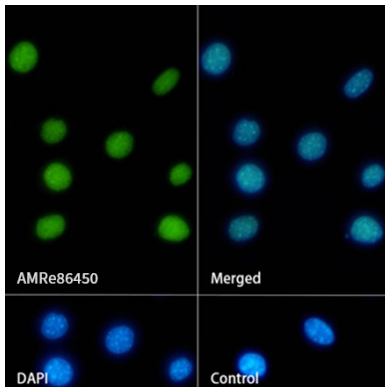
核膜では、核ラミナとヘテロクロマチンが核内膜に隣接しています。この遺伝子によってコードされるタンパク質は DNA に結合し、

ヘテロクロマチンの構成要素となります。このタンパク質は、核内膜に存在する膜貫通タンパク質であるラミン B 受容体にも結合します。コードされるタンパク質の二重の結合機能は、ヘテロクロマチンと核内膜の関連性を説明できる可能性があります。このタンパク質は、Lys-9 部位がメチル化されたヒストン H3 末端に結合します。また、このタンパク質は紫外線誘発性 DNA 損傷および二本鎖切断部位にもリクルートされます。この遺伝子には、同じタンパク質をコードするものの 5' UTR が異なる 2 つの転写バリエーションが見つっています。[RefSeq 提供、2011 年 3 月]

研究分野

-

画像データ



HP1 ガンマウサギモノクローナル抗体を使用して HP1 ガンマを標識した NIH/3T3 細胞の免疫蛍光分析。